

第2回 東広島市域における総合的な治水対策協議会 議事概要

1 市街化による影響分析について

第1回協議会で選定した西条地区の「中川流域」と八本松地区の「深堂川流域」の市街化の影響を定量的に確認するため、各4ケース^{※1}でピーク流量及び浸水面積・浸水深を推算し、「宅地開発の進展により水害リスクが増加すること」及び「特に将来予測④のケースで影響が顕著であること」の認識を共有した。

※1： 検討した4ケースは次のとおり

検討ケース	内 容
①	黒瀬川基本方針策定時 [平成13年]
②	現在 [令和元年]
将来予測③	市街化区域が100%宅地化する
将来予測④	将来予測③に加え、50戸連たん区域が100%宅地化する

2 検討の方向性

- ・ 総合治水対策計画 [仮称] の策定に向け、外水・内水氾濫という観点も含め、関係主体（河川、下水道、都市計画、ため池等）における既往計画等（河川整備計画、雨水管理総合計画、立地適正化計画等）の情報の共有化を図る。
- ・ 東広島市全域について、黒瀬川流域以外の他河川流域を含めた検討順位を示したロードマップを作成する。
- ・ 中川及び深堂川流域については、流域対策や河川改修等について目標（対象洪水）を定める。
- ・ 中川及び深堂川流域については、将来予想される市街化面積をより詳細に検討するとともに、下水道部策定の雨水管理総合計画を組み入れた氾濫解析を行い、市街化の影響をより詳細に把握する。